

みこころ

第13号

2009年
8月15日

発行元：

カトリック城北橋教会 広報委員会

〒462-0847 名古屋市北区金城1-1-57

TEL(052)912-7123 FAX(052)935-2254

(HP)<http://johokubashi.mikokoro.net>



右の写真は中山一郎さんがポルトガルのファチマに巡礼された時に撮影された聖母像です。1917年5月13日に3人の子どもに出現され、その日が記念日となっています。

12月8日の無原罪の聖母と本日の聖母被昇天は信仰箇条です。この両日は聖母の生涯を黙想する良い機会です。マリア様はイエス様の使命を深く理解され、母親として出来得る限りの奉献をされましたので、ご復活は当然のことなのです。しかし、ヤコブスの黄金伝説によれば、マリア様が天に上げられた時、その場になくて、被昇天を信じなかった聖トマの前に、聖母の巻いておられた帯が天から落ちてきたとあります。

教会の宝であります日曜学校の子供たちのために、サマーキャンプの食事を担当されましたお母さんたちも城北橋教会のマリア様たちです。きっとイエス様も日曜学校の子どもたちと同じように、マリア様の手料理を美味しいと沢山食べられたのでしょう。（後藤）



INDEX

- 「聖母マリアの被昇天」 プリヨ・スサント神父 (p2)
- 「イパシオ神父様の初ミサ」 (p3)
- 「神学生日記」 片岡義博 (p4)
- 「寄稿」三井浩子・古澤知重子・木川千栄・山本千恵子・西村早苗・田口保 (p 5～8)
- 「不思議発見シリーズ 第8回」 (p9)
- 「信者動向」 (p10)

聖母マリアの被昇天

「しみやしわやそのたぐいのものは何一つない栄光に輝く教会」 (エフェソ五・二七) の未来の姿であるマリア

主任司祭 プリヨ・スサント



マリアは、人間でありながら、死後、被造物の腐敗から免れ、魂も体も天にあげられました。マリアは、死者の復活を先立って味わい、キリスト者が信じて

希望する死者の復活は確かなものであることを示しています。この「マリアの被昇天」の教義は、一九五〇年十一月一日に教皇ピオ十二世によって宣言され

ました。マリアの被昇天の教義を宣言されたピオ十二世は、決して新しい教え、あるいは新しい教会教義を教えられたものではありません。なぜなら、すでに初代教会の時代からイエスの母マリアは、教会の一員として、また、キリスト者の母として切っても切れない存在だからです。また、救い主・キリストとなられたイエスを産んで、立派に三

十年間余もイエスを育て、

最後に十字架から降ろされたイエスの遺体を抱きしめた母マリアは、神から与えられた使命を完璧に果たされました。

ですから、たとえ教皇ピオ十二世が母マリアの被昇天を教義として宣言されなくても、母マリアは間違いなく、確実に神の栄光に包まれて神と共に、永遠に生きておられるのです。

キリスト者にとって、この世に生まれ、生きておられた主イエスは、母マリアの子イエスでしたので、復活して天に上げられたイエス・キリストも母マリアの子のままなのです。それは、ただの親子の血縁関係のためではなくて、母マリアは、イエスの最後まで、イエスと共に苦しみを忠実に、確実に、耐え忍びられたからです。母マリアは、信仰の恵みを生きたからです。

マリアの「お言葉通り、この身になりますように」という信仰は、イエスを身ごもって産んだ時までで終るのではなく、十字架から降ろされたイエスの遺体を抱きしめる覚悟も暗示されたのです。

聖母被昇天の秘儀は、場所的、空間的な関連を持っていないのです。この記事の出だしに述べた被昇天の教義の内容から見れば、被昇天は神に信頼を置き、神に導かれて生きる人の最後の状態を意味するのです。

「あなたはわたしの右の手を取ってくださいるので、常にわたしは御もとにとどまることができ。あなたは御計らいに従って私を導き、後には栄光のうちにわたしを取られるであろう」(詩編七三・二三―二四)。なぜなら、「わたしの肉もわたしの心も朽ちるであろうが、神はとこしえにわたしの岩、わたしに与えられた分」(詩編七三・二五)だからです。

母マリアは、地上の人生を終った後「神に栄光のうちに取られる」(詩編七三・二四)状態となったのです。

母マリアは、キリストの罪と死に対する決定的な勝利に、復活の勝利に、あずかっておられるのです。第二ヴァチカン公会議は、「マリアは教会が終末のときにあるべき姿であると述べています。」

「恵みあふれる聖マリア、主はあなたと共におられます。主はあなたを選び祝福し、あなたの子イエスも祝福されました。」

母マリアは、その信仰によって、永遠に人間のままでありながら、人類のすべて、被造物のすべてに先立って、キリストの救いに与り、信じる者の母となられました。

イパシオ神父様 初三サ おめでとうございます

昨年の十二月十三日、フトウナ（南太平洋のフィジーに近いフランスの海外領土）で司祭の叙階を受けられたイパシオ・シオネボエ神父の日本での初ミサが、六月十四日（キリストの聖体）にありました。当日は子どもの初聖体の日でもあり、ミサ後ホールで祝賀会も開かれ、喜びの日となりました。ただ、この直後に、お父さんがニューカレドニアで入院され、お見舞いのため一時帰国されています。加納さんからお借りしたビデオで当日の説教を要約してみました。



皆さん、今日は「キリストの聖体」という大切な祝いの日です。キリストの聖体とは、どういう意

味なのでしょう？ また、どういうことなのでしょう？
まず、キリストの体をいただくことにより、私とキリストが一つになるためではなく、私とキリストとキリストの兄弟が一つになるという意味です。何故なら、教会はキリストの体だからです。教会は建物ではありません。

せん。教会は信仰する人のもの、つまり私たちそのもののなのです。私たち日本人でも、気持ちや性格も違いますが、キリストの体をいただいて、私たちは本当に一つになるのです。そして今日、初めてキリストの体をいただく人たちは、どういう人になるのか分かりますか？（分かります）この素晴らしい体をいただくことにより、皆さんと一緒に、神様の愛を分け合って、どういう人になったらいいか、教会の仕事を見つけましょう。それから、もう一つの意味ですが、キリストの体をいただくことは、私たちの生命と生活の

源になるということです。神様の体をいただくことによって、神様から生きる力や、平和や、愛、そして楽しい生活が与えられるのです。何故なら、私たちはキリストの心から生まれ、キ

リストの心にとどまり、キリストの心に戻るからです。では、皆様、これから神様と一緒に頑張らしましょう。父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。

アルスの司祭、聖ヨハネ・マリア・ピアンネ（二七八一―一八五九）の没後百五十年を記念して、イエスのみ心の祭日から来年の六月十九日までを特別年の「司祭年」とすることを教皇様が発表されました。テーマは「キリストの忠実、司祭の忠実」です。聖心布教会の創立者である

司祭年（キリストの忠実、司祭の忠実）

シュヴァリエ神父様は、亡くなられる半月程前に、この聖ピアンネを訪ね、大きな慰めと励ましを受けたことを記しています。

貧しくて神学校にもいけなかった聖ピアンネでしたが、品行方正、信仰に厚い人でしたので、アルス村の司祭に任命され、フランス革命後の動乱の時代、労働のため教会に

として、イエス様の贖いに参与されていたのです。ですから、全世界の司祭の守護の聖人とされているのです。教会と現代社会における司祭の役割と使命の重要性、また神学生の養成の必要性だけではなく、私たちキリスト者としても考えなければならぬ年だと思えます。（後藤）

神学生日記①

日本カトリック神学院と神学校の生活

ヨハネ 片岡 義博

名古屋教区の神学生として、神学院で生活をはじめて、あっという間に四ヶ月が経ちました。前期の授業が終わり、七月二十日に名古屋へ戻ってきました。城北橋共同体の皆さんに近況報告や、神学生の苦労話や感じることを少しでも分かち合っていたりするように、私も元編集者でした、この「みこころ」の紙面を通して、出来る限り紹介できたらと思っています。

今回は、新しい組織となった日本カトリック神学院の紹介と神学院で、私がどんな生活をしているのか紹介したいと思います。

■二つの神学校をひとつに！

二〇〇九年四月、東京の「東

京カトリック神学院」と福岡の「福岡サン・スルピウス大神学院」が一つになり、日本カトリック神学院に変わりました。日本におけるカトリック教会で働く教区司祭をめざす神学生を養成するために、二つの神学院を合同することになりました。

その目的の一つにあげられているのが「日本の司教団が一つとなつて、教区司祭の養成の責任を果たすため」です。この合同によって、神学生たちがともに一つの神学院で養成されることで、神学生のところからの交わりが生まれ、日本の教会全体のために福音宣教する仲間意識と宣教の視点を神学生のときから持つことができるようになります。

日本全十六教区の神学生が司祭職を目指し、日夜共に祈り、学びながら、生活をしています。

■神学校ってどんなところ？

①「神学校は六年課程」

- ・一～二年生・哲学課程（東京）
- ・三～五年生・神学課程（福岡）
- ・神学課程終了後↓助祭叙階
- ・六年生・助祭コース（東京）
- ・司祭叙階へ

②「神学校は全寮制」

- ・養成担当する司祭と共に、神学院で寝食を共にします。
- ・神学院は知的な養成だけでなく、霊的、人間的、司牧的な養成も大切にしています。

・教員は、共住している司祭だけではなく、通いで教えにみえる司祭、信徒、修道者がいらっしやいます。

③「神学校ってどんな生活をした、勉強するの？」

神学院の一日の流れは、下の日課表のように、念禱、朝の祈り、ミサからはじまり、日中は授業。授業では、哲学科は文字通り哲学を中心とした授業を学びますが、その他にもフランス語、英語などの語学、聖書通読、カテキズムなどを学びます。神学科になると、組織神学、聖書、典礼、倫理、歴史などを学びます。

夕方になると聖歌の練習や種々の祈り、晩の祈りを行い、夕食後は個人の学習時間となります。週末は各自それぞれ派遣された小教区などに「司牧実習」に出かけます。ここで自分たちが福音を宣べ伝える現場と接しながら、いろいろな示唆を受けます。習ったことを現実につなげ、勉強するモチベーションを高めて

いきます。

そして、夏休みなどの長期休暇は自分の教区に戻り、教区活動の手伝いをしながら過ごします。

す。私は今夏、東山教会で立垣神父様にお世話になりながら、生活をしています。

■日本カトリック神学院 哲学科1年生 日課表(東京キャンパス)

	月	火	水	木	金	土	日
6:15	朝課・念禱	朝課・念禱	朝課・念禱	朝課・念禱	朝課・念禱	朝課・念禱	
7:10	ミサ	ミサ	ミサ	ミサ	ミサ	ミサ	朝課・念禱
8:00	朝食/片付	朝食/片付	朝食/片付	朝食/片付	朝食/片付	朝食/片付	朝食/片付
9:00(1限)	週礼	哲学入門	英会話	形而上学	哲学史	解釈学	教会実習
9:50(2限)	要理研究						
10:45(3限)	教会史	ラテン語	哲学演習				
11:35(4限)							
12:30	昼食/片付	昼食/片付	昼食/片付	昼食/片付	昼食/片付	昼食/片付	
13:40	昼課	昼課	昼課	昼課	昼課	昼課	
14:00(5限)	教会史	聖書概論	哲学的人間論			人格と人間関係	
14:50(6限)							
15:45(7限)							
16:35(8限)							
17:30	聖歌練習	読書課	種々の祈り		主日典礼準備		
18:00	晩課	晩課	晩課	晩課	晩課	晩課	晩課
18:30	夕食/片付	夕食/片付	夕食/片付	夕食/片付	夕食/片付	夕食/片付	夕食/片付

今日もマリア様 と マルカリータ 三井 浩子

今日も、私はロザリオを握り、ロザリオを唱えながら五キロのウォーキングに出掛ける。この五キロ、一時間弱がマリア様と私の時間。まず、こうして今日も元気で過ごせ、与えられた仕事に従事できることへの感謝を

神様、マリア様に祈ることから始まります。

そして、口ではロザリオを唱えながら、心でいろんな会話をしながら歩きます。「今日は良いお天気ですね」「久しく見ていなかったつばめが飛んでいました」「しばらく通らなかった、この道に何時の間にか、こんなにアジサイが咲いて、綺麗ですね」「お堀の白鳥、今年も雛がかえりませんでしたね、七個あった卵、見るたびに減っていった最後は一個に、それでも温めている姿に望みをかけていました、やはり駄目でしたね、卵はどうしたのかしら？もう親

鳥も巣を離れ空っぽですね」

「いつものノラちゃん、今日は見えないけど、今にも産まれそうなお腹だったから、産まれたのかしらね」なんて・・・。こんな風に会話をしながら、何時もの道を、マリア様と一緒に歩いている私は幸せだなと思います。

勿論、大きな問題が起きたとき、悩んでいる時も、心のうちのものもろもろを話し、どう対処すべきか問いかけ、マリア様から神様へと、お取次ぎしていただくように祈ります。祈ることによって難しい問題でも必ず一筋の明るい道を示して下さいます。

緊急支援活動の報告②

はやいもので城北橋教会緊急支援活動も、動き始めてからちょうど六ヶ月が過ぎました。私たち世話係は、当初は活動の具体的イメージも無いまま、疑問、不安ばかりでした。必要として来られる方はどのくらいか？どんな品をどのくらいお渡しするのか？お金はたりのるのだろうか？何度、神父様や役員の方々に励まされても、やっぱり少し、心配でした。皆

対象と聞いています。報道でも派遣切れ外国人労働者のきびしい現状を特集しています。ヘコソニチハーンと明るく来られる皆さんですが、その心中を思いつつ、私たちは祈りながら、チームワーク良く、汗を流しています。いつもお祈り、ご支援、励ましを有難うございます。今後ともどうぞ宜しくお願いします。（世話係一同）

私にとっての祈り

マリア・ソフィア
古澤 知重子

私をはじめ「神様」の存在を知ったのは、幼稚園に通い始めた頃でした。ミッシェン系の幼稚園に通っていた私は、そこで聖書の物語を聞き、朝夕お祈りを唱えたのです。聖書のお話にワクワクし、楽しみで仕方ありませんでした。

世界中には戦争、貧困、病に苦しんで、生きていく希望、力も失っている人、まして自分では、どうする事も出来なく、泣く力さえない小さな小さな子供たちが沢山のいるのに、その人たちが比べると、私はなんと恵まれた国に、そして恵まれた環境の中で、こうして幸せな時間を持つ事が出来るのだからと、深く感謝せずには居られません。三環近くロザリオを唱えた頃、家に着きます。さあ、残りの仕事、張り切ってやりましょう、滞りなくこなせますようにお守りください。

ある日、目には見えない神様のことを先生が、こんな風に教えてくださいました。「神様はみんなの目には見えないけれども、いつも私たちの傍らにいてくださって、見守っていらっしゃるのですよ。『いつも傍らにいてくださる』という言葉がとても印象的で、それ以来、通園・通学・通勤の時、帰宅の時には神様に話しかけるようになりました。内容はたわいもないことです。今日起こった出来事、お友達のこと等、ごくありふれたことばかりです。それでも神様に話しかけることは楽しくて心強く、幸せで特別な時間を過ごしているなあと感じます。

ある時、神父様から「祈る」ということは特別、見構えてすることではないのですよ。ちょうど両親に話をするように、神様に語りかければいいのです」と教えていただきました。それまでの私は祈ることもできない、駄目な信者だと落ち込んでいましたが、神父様のお言葉に救われました。私が常日頃、行っていたことが「祈り」だったのだと。相変わらず私は、恥ずかしいことですが熱心な信者ではありません。日常の忙しさのため、日曜日のごミサにあずかれないことも、しばしばです。でも、「祈る」ことだけは忘れることなく続けていきたいと思っています。

「感謝」

マリア・ザ・レサ
木川 千栄

二〇〇九年四月十一日復活徹夜祭において、長男の啓緒（ひろつぐ）と長女の静（しずか）が洗礼のお恵みを頂くことができました。この日を迎えるにあたり、プリヨ神父様、St高良、St林、日曜学校のリーダーの方々、代父、代母になって下さった山田裕二郎さん、水野麻衣子さん、そして城北橋教会のみなさまに心よりお礼申し上げます。家族の中で、カトリック信者は私だけでした。東京教区の成田教会で受洗し、子供達は私の信仰のために一緒に連れて通っていました。長男は成田教会で、とても可愛がっていただいた記憶が残っているようです。主人の転勤で名古屋に来てしばらくした頃、長男が自分から日曜学校に入りたいと言うようになりました。新しい環境に慣れることへの負担を教会でいやされたい・・・様子でした。

一途な性格なので「信者になりたい」という希望を持ち始めるのもそんなに遠くはないだろうと嬉しい気持ちになった反面、とても大きな不安も感じました。それは啓緒は仏教徒として代々のお墓を守ってきた木川家の後継ぎとして親戚や、特に義父から期待をかけられているからです。幸い主人は個人の生き方を尊重しようという考えなので、私の受洗の際はなんとか了解してもらえたと、いざ長男も・・・となると、どうなるのだろうかと思い、プリヨ神父様とSt高良に思いついて相談をしました。神父様は「家庭の不和になってはいけないが、カトリックが長男の生き方の選択肢の一つになると考えたらいいのではないか」とアドバイスをして下さいました。主人も「それなら・・・」と日曜学校への参加をOKしてくれました。

教会のみなさん、そして日曜学校のみなさんの善意と優しさに触れ、長男はしばらくして「洗礼を受けたい」と、やはり願うようになりました。しかし主人の答えは「NO」でした。さらに、「啓緒が自分なりの言葉で信者になりたい理由を伝えられるようになるまでは認めない」と言い、私からの助言も断りました。

それでも、時間をおいて又父親に申し入れをするというのを啓緒は何回か繰り返ししました。次第に主人の態度が和らいでいくのを感じることがありました。それは私と子供達が教会のみなさんの様子や出来事を楽しく話しているのを、嬉しそうに聞いてくれるようになっていたからです。

ある日、主人が長男に「よし、わかった、いいだろう。お父さんは、ひろつぐの生き方を認める。そしてお願いがある。カトリックを認めて欲しい」と伝え、同時に、みこころ幼稚園に楽しく通っている静の受洗も了解してくれました。

私と子供達を通して、城北橋教会共同体の優しさに主人が触れることが出来たのではないのでしょうか。それが長男の思いを理解すること、長女の受洗につながったのだと私は思っています。次男は「お父さんが一人ぼっちになるのはかわいそうだから僕は受けたい」と言います。それもまた優しい心遣いだと感じます。素直な次男の気持ちに大切にしたい。次男のそばにも神様はいて下さると思っていて、見守っていかうと思えました。

父の死から 10年

マリア・ヘルナデック
山本 千恵子

私達夫婦にはまだ乗り越えなければならぬ現実（後継ぎなど）が残っていますが、神様を信じ、心をゆだねて、ゆつくりと良い道をさがしていきたいと思っています。神様と皆様へ感謝！

「ちえちゃん」、その呼びかけが父の最期の声だった。十年前、私は古い精神科病院に入院していた。前の病院とは天と地の差である。でも、手芸や歌や体操や書道を教えてくださった。クリスマスの前日に、父とおば様が先生に会いに来た。「クリスマスだから帰して欲しい」という言葉に、主治医は許可を出さなかった。

おば様が「モナがいろいろ薬の名前を言う」と生意気と思われるので、やりにくいみたいよ」と言われた。インフォームドコンセントっていったい何なのか心の中で反論した。そして、病室に帰る時、私はがっかりして頭をたれ、面会室の戸をあけようと

した。その時、父が「ちえちゃん」と大きな声で言った。私はショックでふりむけなかった。そして、一月中旬、父は心筋梗塞でたおれ、八日赤に運ばれた。その知らせに私は入院なんかしている場合でないと思った。姉の車で父の入院先へ行く。父は目があけず口もきけなく、耳だけ聞いた。父の主治医は中部労災病院にいたので、私は入院先の公衆電話から父方の伯母に電話して「中部労災病院へ父を送って下さい」と、願った。そしてそのようになった。それまでに三ヶ月かかった。そして、私は退院も出来ず、ずっと入院していた。どこも悪くないという主治医に、なぜ薬を飲ませるか合点がいかなかった。まるっきり人体実験じゃないかと恐ろしくも思えた。薬の副作用で体重は増え、前の体とは全く別人である。日本の精神医学会は遅れていると思った。三回外出して父に会いに行き、七月四日、父は帰らぬ人となった。

知らせは父の兄から病棟の公衆電話にかかった。「大好きなお父さんだったけど残念やったなあ」と・・・声が出なくなっていた。三日間外泊許可を得て葬儀に行った。私は外に出られる嬉しさで喜んだ。父が死んだとは全く認識がなかった。お茶出しをしていた。カトリックのよう

に祭壇を設け、禪宗のお坊さんが来て葬式をした。パッヘルベルのカノンが流れた。その時、私の心は混沌としていた。父を失って十年がたった。近頃、父の事ばかり思い出し、一人泣いた。「お父さんは、ちえちゃんはどこにいても見ているからね」と、小学校の頃私に告げた父。今、母と暮らしているが、父と母の違いに毎日驚くばかりで、近頃は親に対して反感を持つようになった。私一人だったので周りの姉弟、姪、姉のご主人と驚くばかりである。忍の一字でやってきた。カトリック信者で良かったと思う。教会は私にとっては家族である。神父様はお父様、シスターはお母様とそう思って接している。年下のシスターは妹のように思っている。近頃よく話せるようになった。本当に教会のおかげである。この場をかりてお礼申し上げます。この十年、孤独になることが多かった。父の死から十年がたった。そろそろ自己主張してもよいように思う。お父さん、天国から見てくださいね。そして、一言いいたい。何でも言い合える共同体となって欲しい。人間の持つ唯一の言葉で許し合い、励まし合い、助け合う、そういう共同体であると思うが、もっと、もっと皆一致すればいいと思う。教会は大家族である。私をここまで成長させて下さった。

本当にありがとうございます。マザー・テレサ百の言葉より七十五番目、ひとりのジャーナリストとの質問、「教会の中で変わるべきものは？」マザー・テレサ、「あなたと、わたし」

「日々是修行」 洗礼を受けて1年 カリーナ 西村 早苗

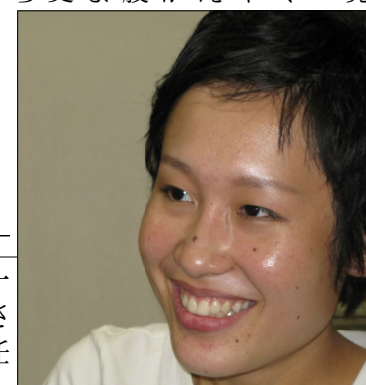
私の勤務先は駅の百貨店の中にあり、毎日大勢の人を相手にする。その中で最もうんざりすることは何か。なちっこいクレマーか。ヒステリー気味の人か。いやそうではない。

最もうんざりするの、法律に触れることなく普通の生活を営んでいるように見える、ごくまともそうな人達（私もおそらくこの部類に入る）が、お会計の順番を守らなかったり、商品の上に（無神経にも）自分の荷物を置いたり、何も買わないのに紙袋を要求したりする場面にぶつかる時だ。

クレマーなどよりそうした一見普通の人に腹が立つことが多い。それはなぜか。たぶん本

人に何の自覚もないからだ。

「人を裁くな」これはキリストの教えである。しかし現実では腹を立ててしま



テレジア水野麻衣子さん

う。そして更にもっと恐ろしいことに気づく。自分の腹立ちの裏側に何があるのか。そこには他者への軽蔑と「自分はそんなことはしない」という驕りがある。つまり罪がある。しかも反射的に他人への腹立ちが起これるということは、自分の罪が実に根深いものだということだ。しかし、こうしたことに気づいて自分の心を少しでも改めようとすれば、まだましで、そうした場合、自分はとても無力で、神に祈る。神を求める。

最も救いようがないのは、自分の罪に対して無自覚でいる時だ。人の罪にはすぐに気づくのに、なぜ自分の罪には気づかないのだろうか？人に対して「あ、やっちゃった！」と感じて後悔することができるのは幸せだ。しかし、いつも通りの毎日を送っている時、私はどうも心が鈍くなり神を求めなくなり、神から離れてしまふ。

日々是修行。神よ、どうか自分の罪に気づかせて下さい。

教会の子供たちに教えられ、育てられた人

今年も、8月2日～3日に日曜学校のサマーキャンプがありました。神父様やシスター高良の支えがあったとはいえ、このキャンプの企画、実施のリーダーという大任を任せられ、期待に違わぬ大活躍をされました。参加者十四人の中には、初めての合宿という子供たちが多いので、お兄ちゃん、お姉ちゃんの役割を高学年の子どもに期待したいと、「皆が仲良く遊び、楽しんで欲しい」をモットーにしたとのこと。問題は、同学年という横割りで育ってきた子供たちが、幼い子供たちの面倒をみれるかという心配です。自分の接触の仕方では子供たちの反応が変わるということ、今までの日曜学校で、経験してきたので、子供たちの不思議な力に信頼していこうと思ったからですと言っておられました。上からではなく、共にという気持ちが自分自身を変えていったと、力強い発言に頼もしさを感じました。もう一つは、強力な片岡兄弟やシスター林の欠けるスタッフの確保です。料理の手伝い

もキャンプの楽しさの一つですが、今回はお母さんに食事の準備は全て任せ、日曜学校の同級生だった人に子供たちと一緒に遊ぶスタッフをお願いしたということでした。社会人となったり就職活動に忙しい、日曜学校の卒業生が子供たちのために、参加してくれるという話に、水野さんの人柄と神様の働きを感じずにはおられません。それにしても、純粹過ぎる、真っ直ぐな生き方に眩しさと、多少の不安を感じていたのですが、正直、真摯な生き方に圧倒されました。「生命を守る」というゼミで、摂食障害についての論文を纏めているうちに、心理学との繋がりを強く意識し、臨床心理士の資格を取って、心理学の専門家として社会に出たいと決意を語ってくれたのです。その願いが適う事を切に祈りたいと思いました。お婆ちゃんはパッチワークの岡田貴代子さん、お母さんはオルガン奏者の水野敦江さん、三代目の信仰は、理屈ではなく本当に生き方になっていることを実感しました。（後藤）

転入にあたってのご挨拶

洗礼者ヨハネ

田口 保

みなさん、こんにちは。この三月より城北橋教会へ転入をいたしました。

昨年の暮れより仕事の都合上、一時車を手放す事態が生じ、三十数年ぶりに公共交通機関を利用した生活を余儀なくされました。どのように利用すればよいかがわからず、どうにか地下鉄に乗ることができるといふ状況でした。どこへ行くにも目的地・経路を調べ、乗り換えをする場合はその経路地も把握しないことには、行き着くことができないというごく当たり前のことを改めて経験するとともに、不便さも大いに感じました。

こういう状況下において、乗り換えもせずに駅から近い教会はといえば城北橋教会が歩く時間を含めて最も近い教会との結論に達しました。所要時間概ね十九分、その他の教会はそれ以上を要し問題外としました。改めて自動車を利用するようにな

りましたが、いつかは必ず公共交通機関を利用せざるを得ないときがやってきます。そのような場合においても、教会へ足を運ぶ事が苦にならない歩行時間と地下鉄一本で行くことができると教会に所属できたことは幸いといえます。

さて、私事ですがご存じの方もおられますが、二〇〇八年のクリスマス前に十二月二十三日に弁護士事務所へ自己破産の申し立てに伺い、その後の対応・準備を含め今後の方向性を検討する事と相成りました。

クリスマスを含めほぼ年末近くまでこれまでの取引先や関係先へ経緯を報告し、理解をして頂くこととなりました。当然連れ合いである妻や家族にもかかる状況は知らせておりましたが、なるようにしかならないのだから、自分の過去を捨て去る事ができるかどうかだねという言葉を投げかえされ、気持ちの整理をすることができました。これまで個人的に親しくさせて頂いた一部の方にこの状況を伝え新年を迎えました。

お会いした方よりお話を伺い、これまで同様の仕事に励むことができる機会が与えられ、新たな気持ちで業務に取り組みることができることはありがたいことです。

そこでは、遅くとも三月頃を目途に会社を設立するので、「ノウハウ」を生かしてほしいとの要望でありました。二月に入りアルバイトとして準備に関わり、三月より社員として迎えて頂き三月下旬に会社が設立登記されました。目下資料作成に集中し現在に至っております。

新たな勤め先は、社名を「株式会社マリヤサービス」、屋号を「白ゆり社」としての発足であります。社名の「マリヤ・・・」から推測されるとおり、プロテスタントのクリスチャン一家で三代目となる孫が本業との取締役兼務で設立に関わり、介護福祉をはじめとする「トータルケア」を目指す第一段階として「キリスト教葬儀」に取り組み始めた次第であります。

キリスト教の葬儀は簡潔である、あっさりしている等様々なとらえ方がありますが、聖書をひもとけば、アブラハムが妻サラを葬るために私有墓地を購入したことや、アブラハムの一族がそこに葬られたことが聖書（創世記二三章以下）に記されています。新約では、キリスト

葬儀問答シリーズ① 田口保

問（１）家族の中で自分一人だけが洗礼を受けた信者です。教会で葬儀を行ってもらうには、誰に相談すればよいでしょうか。司祭・教会委員にお願いすればよいのでしょうか。

答 司祭・教会委員会・教会の親しい友人ももちろんですが、それ以上に大切なことは、生前に「はっきり」と家族・親戚に葬儀に関しての「自分の意向」を表明しキリスト教での葬儀をお願いしておくことが肝要です。そうでないと、家族・親戚の意向で仏式による葬儀で人生を終えたというケースも多々見受けられます。これは自分の葬儀を死者が係わることができないため、実際に起こりうることなのです。死を迎えてからでは遅すぎます。生前に葬儀の意向を残される家族・親戚に伝え、必要ならば遺言を残すことも一考です。従って、司祭・教会委員にではないと言えます。う。（葬儀に関する質問をお寄せください。例えば、どれくらい費用がかかるのかなど、何でも結構です）

が死に葬られ三日目に復活されますが、死んだ後、十字架から降ろされ葬られる様子が詳細に四福音書に記されています。

死者を丁寧に葬る「お葬式」すなわち「香・水を使用する」、「死に装束をする」、「柩に納める」、「祈る」、「墓地を準備する」、「石柱を立てる（墓石）」事などの葬送儀礼は旧約時代からすでに行われており、死者を丁寧に葬ることは聖書的といえましょう。決して非聖書的ではありません。ある意味式に関わるものは皆、主の祝福のうちにあるといえます。この祝福の恵のうちにある業務に関わることは幸いと思っております。

今日に至るまで様々な事がありますが、継続している問題もあります。どのような状況下にあるうとも「主はわたしとともにおられる」ということをたえず感ぜざるをえません。これまでは頭で理解していたキリストの言葉を体で感じる事ができつつあることは幸いなことでもあります。小さきもののそばにおられ「恐れるな、わたしはおまえとともにいる」と言われる主キリストに信頼し、残されている時間を主とともに歩んでまいりたいと願っています。小さきものの一人ですが、良き交わりをお願いいたします。転入のご挨拶とさせていただきます。

不思議発見シリーズ⑥

聖櫃のランプが点いていませんか？

どうして、聖櫃の赤いランプが消えている時があるのでしょうか、それが今回の謎です。四十年前のことですが、カテキスタの片岡章子先生に案内され、初めてお聖堂を訪ねた時のことは生忘れません。お聖堂に入りますと、夜だったからでしょうか、赤い小さな灯りが最初に目に飛び込んできました。「怖い」という私の印象に「優しい方がおられるのに、怖いだなんて」と笑われましたが、

今から思いますと、初めて体験した聖なるものへの畏怖だったのでしょうか。背面ミサの時代は過ぎていましたので、大理石の祭壇は前にずらしてありましたが、まだ階段の上にあり、その祭壇の左隅に木製の聖櫃が置かれていた時代のことです。祭儀は階段下の木製の祭壇で行われていました。やがて木製の祭壇が三階に移され、今のようになりましてので、聖櫃の置き場がなくなり、聖香油を入れた小

に置かれます。「御聖体は、教会堂内の、よく知られ、重要で、はっきりと目立ち、美しく飾られ、祈りにふさわしい場所にある」「祭儀を行う祭壇から離れたところに、よりふさわしい形と場所を選ぶ。ただし、もはや祭儀のために使用されない古い祭壇の上を妨げるものではない」「聖櫃の近くには、・特別なランプが絶えずともさなければならぬ。これによって、キリストの現存が示され、称えられる」とローマミサ典礼書総則314〜316にあります。

聖櫃が置かれる場所については、いまだに論議がありますので、以下は私見として説明させていただきます。まず何故ミサを行う祭壇から離れたところに聖櫃を置くかと言う問題です。つまり、聖変化されるのですから、ミサの初めから聖体保存されている聖櫃が祭壇上にあるのはおかしいのではないかとこの事です。このことは、ミサから切り離されて、ご聖体だけが特別な扱いを受ける、聖体行列などいわゆる聖体への信心という問題にも連なってきますので、これ以上の言及は避けませんが、聖櫃は、病氣などでミサに参加できなかった人に、後から届けるために、

ご聖体を一時的に保存する場所として出来上がったものですか、ここが論議のスタートではないでしょうか。

つまり、キリストの体にあずかるということは、たとえミサに参加出来なくても、兄弟姉妹としての共同体と一致することを実感できる大切な意味があります。ご聖体を拝領することは、キリストと出会う個人的な恵みだけではないのです。イパシオ神父様がキリストの聖体の祝日にあたり、説教で強調されていましたが、この点なのです。

もちろん、ミサ以外にも、お聖堂を訪ねて祈りを捧げる聖体訪問とか、聖体賛美式など素晴らしい伝統があります。

拝領するだけではなく、顕示され、拝むことにより、キリストとの深い一致を味わっておられる方も多いと思います。アルス村の聖ヒアソネが強調したご聖体の前での祈りについても、クワーク神父様が実行されていたことを思い出します。

さて、今回の謎である聖体ランプは、キリストの死を記念する聖金曜日だけ、消えます。それは聖木曜日のミサが終わった後、聖体安置式が行われ、ご聖体が仮祭壇に移され、ご復活までの主の受難と死を表すために、聖櫃は空になるからです。

(文責 後藤明憲)



いた小さな壁が利用していた時代もあったのです。右側の相当低い位置にありましたので、緊急措置といえや問題でした。聖櫃は教会にただ一つだけですので、付属の小聖堂か、司祭席内のどちらか

に置かれます。「御聖体は、教会堂内の、よく知られ、重要で、はっきりと目立ち、美しく飾られ、祈りにふさわしい場所にある」「祭儀を行う祭壇から離れたところに、よりふさわしい形と場所を選ぶ。ただし、もはや祭儀のために使用されない古い祭壇の上を妨げるものではない」「聖櫃の近くには、・特別なランプが絶えずともさなければならぬ。これによって、キリストの現存が示され、称えられる」とローマミサ典礼書総則314〜316にあります。

聖櫃が置かれる場所については、いまだに論議がありますので、以下は私見として説明させていただきます。まず何故ミサを行う祭壇から離れたところに聖櫃を置くかと言う問題です。つまり、聖変化されるのですから、ミサの初めから聖体保存されている聖櫃が祭壇上にあるのはおかしいのではないかとこの事です。このことは、ミサから切り離されて、ご聖体だけが特別な扱いを受ける、聖体行列などいわゆる聖体への信心という問題にも連なってきますので、これ以上の言及は避けませんが、聖櫃は、病氣などでミサに参加できなかった人に、後から届けるために、

ご聖体を一時的に保存する場所として出来上がったものですか、ここが論議のスタートではないでしょうか。

つまり、キリストの体にあずかるということは、たとえミサに参加出来なくても、兄弟姉妹としての共同体と一致することを実感できる大切な意味があります。ご聖体を拝領することは、キリストと出会う個人的な恵みだけではないのです。イパシオ神父様がキリストの聖体の祝日にあたり、説教で強調されていましたが、この点なのです。

もちろん、ミサ以外にも、お聖堂を訪ねて祈りを捧げる聖体訪問とか、聖体賛美式など素晴らしい伝統があります。

拝領するだけではなく、顕示され、拝むことにより、キリストとの深い一致を味わっておられる方も多いと思います。アルス村の聖ヒアソネが強調したご聖体の前での祈りについても、クワーク神父様が実行されていたことを思い出します。

さて、今回の謎である聖体ランプは、キリストの死を記念する聖金曜日だけ、消えます。それは聖木曜日のミサが終わった後、聖体安置式が行われ、ご聖体が仮祭壇に移され、ご復活までの主の受難と死を表すために、聖櫃は空になるからです。

(文責 後藤明憲)

信者動向

【転入】
宜しく願います

四月 鹿児島教区 鴨池教会より

ペトロ 榎木 毅

五月 名古屋教区 江南教会より

マリア・グラチア

中村 理紗

【結婚】
おめでとーいぞいます

五月三十日

マリア・アンナ

山本 博基

山口 真里奈



【初聖体】
おめでとーう

写真右より

トマス 宮地 海翔
トマス 岩佐 ひとし

洗礼者ヨハネ 山田 達義
ルカ 若林 昂樹
みんな笑ってるね



編集後記

①無原罪の聖マリアと聖母の被昇天を祝う日は、太平洋戦争の開戦と終戦に重なり、心から平和を願う日でもあります。また、八月十五日は、聖フランシスコが日本にキリスト教を伝えた日でもあります。祖先の霊を祀るお盆でもあります。そのため、十一月の死者の日のほかに、日本の教会では亡くなった方々のためにミサを捧げる習慣があります。城北橋教会でも八月九日に死者のための合同ミサを致しました。プリヨ神父様が特に説明されたことは、故人の霊を慰めることではなく、天上の教会と地上の教会が一つになって、故人と私たちが神の民であることを示す日であり、神を讃え、神と共に永遠に生きることを信

「ごんべさんの赤ちゃん」で知られる、リパブリック賛歌はご存知のように北軍の行進曲でした。この曲を作詞した女性が、「母の日」制定に深く関わっていることを、暮しの手帖34で知りましたので、紹介します。彼女は南北戦争が終った一八七〇年、夫や子どもを失った悲しみにくれる多くの母親たちの立場から、もう、夫や子どもを二度と戦場に送らないように母親たちは結束しようと、平和と非武装を訴える「母の日」宣言を書



マスク着用の母の日

じ、そこに向かって旅をする力を与えて欲しいと祈る日ですと。②シスター・クララ林は、毎年インスタンで行われている、修道会の霊性・カリスマ・ミッションを学ぶ一ヶ月の研修を受けるために七月中旬に渡仏、その後、霊的指導やマザーハウスでの介護体験を済ませ、十月十五日に

きました。わたちの友愛は国境を越えてひとつだから、他の国の女の息子を殺すための訓練を、自分の息子に受けさせることは許せない！武器を捨てよう！暴力では、何も得ることはできないと、訴えたのです。この呼びかけは、残念ながら、生前には実を結ばなかったのですが、彼女の娘さんが、一九〇七年五月十二日に、日曜学校で母を偲ぶ記念会を持ちました。感動した人たちが翌年も集まった時、彼女が好きたった赤いカーネーションが参加者に配られ、とうとう一九一四年には、母の日はアメリカの祝日になり、五月の第二日曜日と定められました。お母さんありがとうと、母に感謝する日は、戦争へ駆り出される子や夫を思う母親の切ない気持ちもともなっています。全世界から戦争がなくなり、母親が悲しむことのない日が来ることを願わずにはいられません。おまけ扱いの父の日も、実は南北戦争が原因となっています。戦争中、家を守っていた母が過労で亡くなり、戦争が終った後、男手一つで育ててくれた父に感謝するため、ある夫人が、父の誕生月の六月に、牧師さんに頼み、教会で礼拝してもらったことが始まりと言われています。国民の祝日に制定されたのは、一九七二年ですので、母の日制定から、半世紀以上も後のことです。やっぱり……。それにしても、お爺さんの日？（後藤）

マスクのとれた父の日



帰国の予定。四年間にわたる勉学と修道会発祥の地での研修を終えられた後は、具体的な司牧活動に専念される予定です。終生誓願を目指して頑張っておられるシスターのために、皆様のお祈りを願っています。③片岡君が神学生日記を連載してくれそうです。ご愛読と彼とそ

の仲間の神学生のために祈りをお願いいたします。最後にお断りしますが、文章には必ず筆者名を記し、記述の責任を明らかにしております。それはカトリックの公式な見解と異なる場合もあり、個人の意見であることを明記するためです。（後藤明憲）